

デーヴォ ガイド



2022.11.14-20

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?



47:1 ヨセフはファラオのところに来て、報告した。「私の父と兄弟たち、また、その羊の群れ、牛の群れ、そして、彼らの所有するものすべてが、カナン之地から参りました。今、ゴシェンの地におります。」

47:2 彼は兄弟の中から五人を連れて来て、ファラオに引き合わせた。

47:3 ファラオはヨセフの兄弟たちに尋ねた。「おまえたちの職業は何か。」彼らはファラオに答えた。「しもべどもは羊を飼う者で、私どもも、私どもの先祖もそうでございます。」

47:4 また、彼らはファラオに言った。「私たちはこの地に寄留しようとして参りました。カナン之地は飢饉が激しくて、しもべどもの羊のための牧草がございません。どうか、しもべどもをゴシェンの地に住まわせてください。」

47:5 ファラオはヨセフに言った。「おまえの父と兄弟たちが、おまえのところに来た。」

47:6 エジプトの地はおまえの前にある。最も良い地に、おまえの父と兄弟たちを住まわせなさい。彼らをゴシェンの地に住まわせるがよい。彼らの中に有能な者たちがいるのが分かったなら、その者たちを私の家畜の係長としないさい。」

47:7 それから、ヨセフは父ヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオを祝福した。

47:8 ファラオはヤコブに尋ねた。「あなたの生きてきた年月は、どれほどになりますか。」

47:9 ヤコブはファラオに答えた。「私がつ

どってきた年月は百三十年です。私の生きてきた年月はわずかで、いろいろなわざわいがあり、私の先祖がたどった日々、生きてきた年月には及びません。」

47:10 ヤコブはファラオを祝福し、ファラオの前から立ち去った。

47:11 ヨセフは、ファラオが命じたとおりに、父と兄弟たちの住まいを定め、彼らにエジプトの地で最も良い地、ラメセスの地に所有地を与えた。

47:12 またヨセフは、父と兄弟たちとその一族全員を、扶養すべき者の数に応じて、食物を与えて養った

神を信じる人々と、信じないで無視または争って生きる人々とは、当然相容れないことが生じます。信じない人々からすれば、人間中心の視点しかありませんから、当然信仰者を融通のきかない人間と思うでしょう。互いにストレスや争いが生まれやす。ヤコブ一族がエジプトの中心から離れて暮らすことは、そのような点で示唆を与えてくれます。

私たちがやはりどこか、不信者とは一線を画す必要があるのです。それは住む場所というような見える部分だけではなく、人生の目的や使命、または倫理観や人類愛というようなことかもしれないし、何よりも主のみこころを第一にするという生き方です。

エジプト人は進んだ農耕民族で、それゆえ遊牧民をさげすみ、さらには忌みきらうようになっていましたが、それさえも信仰のために用いられました。それゆえ異教の地から離れて暮らすことが容易になったのからです。

人は低く見られたり評価が足りないと、憤慨したり画策しやすいものですが、気にする必要はありません。主がすべてご存知ですし、それを用いて恵に変えてくださることもあるのですから。

兄たちが弟ヨセフを奴隷に売るなどという罪があり、奴隷でありしかも冤罪で入獄するという絶望があり、生きて行けないききんがあるというように、人間には様々なマイナスの出来事がありますが、神様はご自身の計画と愛のゆえに、それらを驚くべき恵に変えてくださいます。

ゴシェンは王の家畜が飼われるほど、牧畜に適したところで、そこで平安のうちに暮らすことができるようになりました。そしてそこでエジプトのために王の家畜の係長として責務を果たすことにもなるのです。信仰者は主の恵によって生き、社会のために貢献しながら、よき証し人として生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



15日 火曜

創世記



47:13 飢饉が非常に激しかったので、全地で食物がなくなり、エジプトの地もカナンのもも飢饉によって衰え果てた。

47:14 ヨセフは、エジプトの地とカナンの地にあった銀をすべて集めた。それは人々が穀物に対して払ったものである。ヨセフはその銀をファラオの家に納めた。

47:15 エジプトの地とカナンの地に銀が尽きたとき、エジプト人はみなヨセフのところに来て言った。「私たちに食物を下さい。銀が尽きたからといって、どうして私たちがあなた様の前で死んでよいのでしょうか。」

47:16 ヨセフは言った。「おまえたちの家畜を差し出しなさい。銀が尽きたのなら、家畜と引き替えに与えよう。」

47:17 人々がヨセフのところ到家畜を引いて来たので、ヨセフは、馬、羊の群れ、牛の群れ、ろばと引き替えに、彼らに食物を与えた。こうして彼はその年、すべての家畜と引き替えに、彼らに食物を分け与えた。

47:18 やがてその年も終わり、次の年にも人々はヨセフのところに来て言った。「私たちはあなた様に何も隠しません。銀も尽き、家畜の群れもあなた様のものになったので、自分のからだ土地のほかに、あなた様の前に何も残っておりません。」

47:19 どうして私たちが、土地と一緒にあなた様の前で死んでよいのでしょうか。食物と引き替えに、私たちと私たちの土地を買い取ってください。私たちは土地と一緒にファラオの奴隷となります。どうか種を下さい。そうすれば私たちは生き延び、死なずにすみます。土地も荒れないでしょう。」

47:20 それでヨセフは、エジプトのすべての土地をファラオのために買い取った。エジプト人に飢饉が厳しかったので、人々がみな、自分の畑地を売ったからである。こうしてその土地は、ファラオのものとなった。

47:21 また民については、エジプトの領土の端から端に至るどこでも、彼らを町々に移動させた。

47:22 しかし、祭司たちの土地だけは買取らなかった。祭司たちにはファラオからの給与があり、ファラオが与える給与によって生活していたからである。そのため、自分たちの土地を売らなかった。

ヨセフはききんに乗じて民衆から搾取したのではなく、善政をしいたのです。古代では王が武力によって強制的に民衆から税などを取り立てるのですが、ヨセフは商取引によって平和的にその関係を築きました。また税は当時ですと収穫の5割も当たり前でしたが、2割というのは少ない割合で、民衆の生活を考えることでした。そしてそれによって国を安定させて、民の幸福を計ったのです。

そのような他国との違いは、やはりヨセフの信じる神への信仰から来るものです。神は正しい方であり、ヨセフと家族を助けた慈しみ深いお方です。クリスチャンである私たちも、自分に与えられた権限や能力によって神様を表すような働きをしましょう。

またヨセフの信仰は当然、神様の人格を表しています。私たちはバロにではなく、神様にささげるのですが、それは搾取などいうものではなく、主への信頼の証しです。この世のあらゆる善政よりもはるかに優る主の支配を信頼し、従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



▶ 16日 水曜

創世記

47:23 ヨセフは民に言った。「見よ。私は今、おまえたちとおまえたちの土地を買って、ファラオのものとした。さあ、ここに、おまえたちのための種がある。これをその土地に蒔きなさい。

47:24 収穫の時になったら、その五分の一はファラオに納め、五分の四は自分のものとしなさい。畑の種にするため、自分の食糧にするため、家の者のため、また扶養すべき者たちの食糧のために、そうしなさい。」

47:25 すると彼らは言った。「あなた様は私たちを生かしてくださいました。私たちは、あなた様のご好意を受けて、ファラオの奴隷となりましょう。」

47:26 ヨセフは、エジプトの土地について、五分の一はファラオのものとしなければならないという、一つの掟を定めた。それは今日にまで及んでいる。ただし、祭司の土地だけはファラオのものとならなかった。

47:27 さて、イスラエルはエジプトの国でゴシェンの地に住んだ。彼らはそこに所有地を得て、多くの子を生み、大いに数を増やした。

47:28 ヤコブはエジプトの地で十七年生きた。ヤコブが生きた年月は百四十七年であった。

47:29 イスラエルに死ぬ日が近づいたとき、彼はその子ヨセフを呼び寄せて言った。「もしおまえの心にかなうなら、おまえの手を私のももの下に入れ、私に愛と真実を尽くしてくれ。私をエジプトの地には葬らないでほしい。

47:30 私が先祖とともに眠りについたら、エジプトから運び出して、先祖の墓に葬ってくれ。」ヨセフは言った。「必ずあなたの言わ



れたとおりにいたします。」

47:31 イスラエルは言った。「私に誓ってくれ。」ヨセフは彼に誓った。イスラエルは寝床の枕もとで、ひれ伏した。

民がヨセフに感謝していることがわかります。ヨセフは、民のためにも、パロのためにも、長期的な視点で安定と繁栄がもたらされるように指導して、その責務を果たしています。その根底は何よりも、平和と慈しみの神の御心です。ですからヨセフは自分の権力増大のためには何もしてはいません。

私たち信仰者にもこの世での責務が与えられています。多くの人々は神を無視しながら生きていますから、そのような価値観とは一線を画すことにはなりますが、しかしヨセフのように神の正しさと愛を表すために、世で力を持つことも大切なことです。それは主の愛を表すためです。

残念ながら、この後エジプトはヨセフからの恩恵を忘れて、イスラエルを迫害します。しかしヨセフやイスラエルの善行は無駄ではなく、後に助産婦や王妃の助けなどにもつながったと言えるでしょう。世にあって責務を誠実に果たすこと…。それは伝道にもつながりますし、神の計画にも役立つことができるのです。

ヤコブは死期が近いことを悟り、人生のまとめをしようと思ったのでしょうか。その人生が主に導かれたものであったことを子孫に伝えようと、信仰の地に葬られることを願いました。「自分の人生がどのように人に伝わるか」を考えることも重要です。また「孫や子に、信仰をどのようにし残すのか」ということも、考えるべきでしょう。それが愛する子どもや孫への、最も大切な愛です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



17日 木曜

創世記

48:1 これらのことの後、ヨセフに「お父上が、御病気で」と告げる者があったので、彼は二人の息子、マナセとエフライムを連れて行った。

48:2 ヤコブに「息子さんのヨセフが、今お見えになりました」との知らせがあった。それで、イスラエルは力を振り絞って床の上に座った。

48:3 ヤコブはヨセフに言った。「全能の神はカナン地のルズで私に現れ、私を祝福して、48:4 仰せられた。『見よ、わたしはあなたに多くの子を与える。あなたを増やし、あなたを多くの民の群れとし、この地をあなたの後の子孫に永遠の所有地として与える。』

48:5 私がエジプトのおまえのところにやって来る前に、エジプトの地でおまえに生まれた、おまえの二人の子は、今、私の子とする。エフライムとマナセは、ルベンやシメオンと同じように私の子となる。

48:6 しかし、二人の後でおまえに生まれる子どもたちは、おまえのものになる。しかし、彼らがゆずりとして受け継ぐ地では、彼らは兄たちの名を名乗らなければならない。

48:7 私のことを言えば、パダンから帰って来たとき、その途上のカナン地の、悲しいことにラケルが死んだ。エフラテに着くにはまだかなりの道のりがあるところであった。私は、エフラテ、すなわちベツレヘムへの道にあるその場所、彼女を葬った。」

48:8 イスラエルはヨセフの息子たちに気づいて言った。「この者たちはだれか。」

48:9 ヨセフは父に答えた。「神がここで私に授けてくださった息子たちです。」すると、



父は「私のところに連れて来なさい。彼らを祝福しよう」と言った。

48:10 イスラエルは老齢のために目がかすんでいて、見る事ができなかった。それで、ヨセフが彼らを父のところに近寄らせると、父は彼らに口づけして抱き寄せた。

48:11 イスラエルはヨセフに言った。「おまえの顔が見られるとは思わなかったのに、今こうして神は、おまえの子孫も私に見させてくださった。」

どんなに立派な信仰生涯を送った人でも、この世で信仰が完成し、神の約束がすべて成就するということはありません。当然ですが、誰もが永遠の神の国に旅立ち、子孫をこの世に残し、神の約束の成就を次世代に委ねなければならないのです。ですから、私たちは謙遜に神に委ねなければなりませんし、次世代を育てて委ねなければなりません。

それは死だけではありません。老いやまた立場と働きの変化によって、次世代に委ねることもあります。自分ひとりで完成するのではなく、常に他の人に委ねつつ、時には頼りつつ進んで行くのが、神様の働きの基本です。

ヤコブも地上で様々なことがありましたが、その波乱万丈の生涯を閉じるにあたって、全能の神の導きを証ししています。私たちもその生涯について、明確に「このように神の導きに従った。私が遺すものは、神の御心だ」と明言できるでしょうか。また今、そのように生きているでしょうか。

またヤコブはヨセフの失われた半生を回復するかのよう、その子であるエフライムとマナセを自分の子として位置づけました。神の祝福の計画が後々まで正しく進むためです。ヤコブは人間的には欠点もある人でした。また今は目も良く見えないという弱さを持っています。しかし信仰においては、過去や弱さが妨げになることはありません。今、生きて働いておられる神を信じて頼り従

うことが重要なのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 金曜

創世記



48:12 ヨセフはヤコブの膝から彼らを引き寄せて、顔を地に付けて伏し拝んだ。

48:13 それからヨセフは二人を、右手でエフライムをイスラエルの左手側に、左手でマナセをイスラエルの右手側に引き寄せた。そして二人を彼に近寄せた。

48:14 ところがイスラエルは、右手を伸ばして弟であるエフライムの頭に置き、左手をマナセの頭に置いた。マナセが長子なのに、彼は手を交差させたのである。

48:15 彼はヨセフを祝福して言った。「私の先祖アブラハムとイサクが、その御前に歩んだ神よ。今日のこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神よ。

48:16 すべてのわざわいから私を贖われた御使いが、この子どもたちを祝福してくださいますように。私の名が先祖アブラハムとイサクの名とともに、彼らのうちに受け継がれますように。また、彼らが地のただ中で豊かに増えますように。」

48:17 ヨセフは、父が右手をエフライムの頭に置いたのを見て、それは間違っていると思ひ、父の手を取って、それをエフライムの頭からマナセの頭へ移そうとした。

48:18 ヨセフは父に言った。「父上、そうではありません。こちらが長子なので、右の手を、こちらの頭に置いてください。」

48:19 しかし、父は拒んで言った。「分かっている。わが子よ。私には分かっている。彼もまた、一つの民となり、また大いなる者となるであろう。しかし、弟は彼よりも大きくなり、その子孫は国々に満ちるほどになるであろう。」

48:20 彼はその日、彼らを祝福して言った。「おまえたちによって、イスラエルは祝福のことばを述べる。『神がおまえをエフライムやマナセのようになさるように』と。」こうして彼はエフライムをマナセの先にした。

48:21 イスラエルはヨセフに言った。「私は間もなく死ぬだろう。しかし、神はおまえたちとともにおられ、おまえたちを先祖の地に帰してください。」

48:22 私は、兄弟たちではなくおまえに、私が剣と弓でアモリ人の手から取った、あのシエケムを与えよう。」

ヨセフは父からの偏愛を受け、それがもてて兄たちから憎まれて奴隷として売られ、辛苦をなめる人生を送らねばなりません。そのような経験のある人の中には、兄たちだけでなく、自分をそのように育てた父にも恨みを抱くケースが少なくありません。

神様がそのような過去を恵に変えてくださったことは言うまでもありません。しかし、どれほど主の大逆転があろうとも、恨みの思いを消せない人もいます。ヨセフは過去を主の恵みによって変えていただくことができました。そこには兄弟たちに明言したように、「神が私を先にエジプトに遣わした」という信仰と、赦しを宣言した告白があったのです。恨みによって考えたり行動したりしなかったのです。

私たちは主の恵によって生きるという信仰を決断する必要がありますが、その決断をしたならば、いつまでも過去に囚われることは人生の損失です。

ヨハネはわだかまりを持たずに、父の霊的權威をも認めて、父からの祝福を受けようとしています。それによって自分と子どもたちが大いに祝福されたのです。

またイスラエル(ヤコブ)は、次男であるエフライムを長子として祝福しました。その根拠はわ

かりませんが、事実そのようにエフライムはマナセよりも大きな部族になりました。神様の一方的な選びを証しするものとして、ヤコブの祝福が用いられたわけです。

そのような選び(賜物や使命も含めて)に関しては、クリスチャン同士でもうらやましがったり、不平を言ったりしやすいものです。しかしエフライムもマナセも共に祝福されたのですから、そのことを忘れないようにしましょう。もしも競争心や不満を持つなら、そこから祝福は漏れてしまうことを覚えましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



19日 土曜

創世記



49:1 ヤコブは息子たちを呼び寄せて言った。「集まりなさい。私は、終わりの日におまえたちに起こることを告げよう。

49:2 ヤコブの子どもたちよ、集まって聞け。おまえたちの父イスラエルに聞け。

49:3 ルベンよ、おまえはわが長子。わが力、わが活力の初穂。威厳と力強さでまさる者。

49:4 だが、おまえは水のように奔放で、おまえはほかの者にまさることはない。おまえは父の床に上り、そのとき、それを汚した。——彼は私の寝床に上ったのだ。

49:5 シメオンとレビとは兄弟、彼らの剣は暴虐の武器。

49:6 わがたましいよ、彼らの密議に加わるな。わが栄光よ、彼らの集いに連なるな。彼らは怒りに任せて人を殺し、思いのままに牛の足の筋を切った。

49:7 のろわれよ、彼らの激しい怒り、彼らの凄まじい憤りは。私はヤコブの中で彼らを引き裂き、イスラエルの中に散らそう。

終わりの日とは、終末というよりも後の時代という意味です。ルベンの子孫であるルベン族は、イスラエルに与えられた約束の地カナンに入る際には、みなと共にヨルダン川を渡らずに、東側に定住しました。そしてその後には滅びてしまったものと思われれます。またルベン族からは士師、王、預言者などは生まれませんでした。

そのような呪いは、ルベンが父のそばめと寝て寝床を汚したことに起因しています。それについてヤコブは告発しています。

先祖の罪の性質はその子孫にまで影響することを考える必要があります。水のように捉えどころのない奔放さは、後のルベン族の自分勝手な定住にも関係しているのかもしれませんが。

またこれは神様の一方的なご計画とすることもできます。後にルベン族を減少させた神様ではありますが、それには深い摂理があったと考えられます。ただ、それでも不公平だとも感じるかも知れません。しかし私たち人間には、ルベンのような罪があるので、それを思えば神様が不当だと非難することはできないのです。

ヤコブの呪いは、人間の罪ゆえの結果と取ることもできますし、また神様のご計画とも取ることもできます。その両方が正しいのではないのでしょうか。

シメオンとレビもまた、妹ビルハの復讐のために多くの人を殺した、その罪を訴えられ、また呪われています。シメオン族もまた衰退し、ユダ族に吸収されてしまったようです。

私たちは生まれつきのままでは、このルベンなどのように、罪ゆえに呪われたものです。しかし十字架のイエス様とともに死に、またともに生きることによって新しくされたのです。今は呪いの中にはいなことを感謝しましょう。そして、新しい生き方、すなわち罪によってではなく、御心によって生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





49:8 ユダよ、兄弟たちはおまえをたたえる。おまえの手は敵の首の上にあり、おまえの父の子らはおまえを伏し拝む。

49:9 ユダは獅子の子。わが子よ、おまえは獲物によって成長する。雄獅子のように、雌獅子のように、うずくまり、身を伏せる。だれがこれを起こせるだろうか。

49:10 王権はユダを離れず、王笏はその足の間を離れない。ついには彼がシロに来て、諸国の民は彼に従う。

49:11 彼は自分のろばをぶどうの木に、雌ろばの子を良いぶどうの木につなぐ。彼は自分の衣をぶどう酒で、衣服をぶどうの汁で洗う。

49:12 目はぶどう酒よりも色濃く、歯は乳よりも白い。

49:13 ゼブルンは海辺に、船の着く岸辺に住む。その境はシドンにまで至る。

49:14 イッサカルは、たくましいろば、二つの鞍袋の間に身を伏せる。

49:15 彼は、休息の地が快く、その地が美しいのを見る。しかし、肩は重荷を負ってたわみ、苦役を強いられる奴隷となる。

49:16 ダンは自分の民を、イスラエルの部族の一つとしてさばく。

49:17 ダンは道の傍らの蛇となれ。通りのわきのまむしとなれ。彼が馬のかかとをかむと、乗り手はうしろに落ちる。

49:18 【主】よ、私はあなたの救いを待ち望む。

49:19 ガドについては、襲う者が襲うが、彼は、その者たちのかかとを襲う。

49:20 アシエルには、その食物が豊かになり、彼は王のごちそうを作り出す。

49:21 ナフタリは放たれた雌鹿。美しい子鹿を産む。

ヤコブはユダ族を大いに祝福します。またこれはルベンなどと同様、将来の預言でもあります。ルベンたちに大しては、ヤコブは自分の経験や感情から息子たちを評して、出た言葉でもあります。神様はそのような個人的な思いをも用いて、預言させ、ご自身のご計画を明らかにしようとされたのでしよう。

しかしユダに関しては、このように特別な祝福が与えられるという根拠は、ヤコブの思いからは生まれません。まさに一方的な神の選びであると言えます。ただしユダ族だけが将来幸せになるというのではなく、それは使命に関するものです。すなわち獅子のように強くなり、王がユダ族から出るということです。

ゼブルン族は比較的海の近くに住み、海外貿易で繁栄したと考えられます。イッサカル族は産地に住みましたが、その生活が重荷となり、安楽を求めて他国の支配下に入りますが、結局は奴隷とされてしまったと考えられます。

このようにヤコブの宣言は、将来の預言という性質と持っています。その内容は神様のご計画を明らかにすること、子孫に対する励ましと警告の意味があるようです。

私たちも様々な形で将来を示されることがありますが、そのときはまず主のご計画を感謝と希望を持って受けること、肯定的なことであるなら励みとし、否定的な内容ならば戒めとして、神様に働いていただいて、恵に変えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

